

## 南仏治安情報（10月分）

### ●テロ、反社会的活動、大規模デモ（邦人被害なし）

#### （1）マルセイユにおける、ジハード志願少女の身柄確保

9月30日にイゼール県内の自宅から姿を消した15歳少女が、4日夜サン・シャルル駅周辺のバーでアルバイトしていたところを同女捜索中の両親に発見され、身柄確保された。警察の取り調べによると、少女はリクルーターの教育によりジハードに参加することを決意し、マルセイユからシリア入りを目論んでいたものの、親切にしてくれた人々からイスラム国の悪評を聞き、渡航すべきか悩んでいた由。少女は失踪時に両親の銀行カードを盗んでおり、現金引き出し場所から同女発見に至ったとのこと。

#### （2）コルシカ島アジャクシオにおける、憲兵隊宿舎襲撃犯人らの検挙

昨年12月にアジャクシオで発生した憲兵隊宿舎に対するロケット弾発射事件につき、6日、憲兵隊はアジャクシオ弁護士会会長他10名を逮捕した。被疑者らはコルシカ独立を望む「コルシカ自由党」に近い存在で政治的影響力があり、本件犯行は当時のヴァルス内相がコルシカ訪問したことに合わせて敢行された事件であった。

#### （3）マルセイユ発生、トルコ総領事館に対する火炎瓶投擲事件

7日未明、8区プラド通りにあるトルコ総領事館の塀に火炎瓶が投げつけられる事案が発生した。火炎瓶は発火も爆発もせず、投擲した4名も捕まらなかった。これに先立つ6日夜には、1区のPACA州議会前に約250人、マルセイユ空港ホールに約100人のクルド人が集結し、シリアのコバネ市内3地域を制圧したイスラム国に対するデモを行った。

#### （4）ニース発生、大家族の失踪事案

ニースに住む一家11人がシリアでジハードに参加すべく自宅からいなくなったとして、8日、パリのテロ対策担当検事が捜査を開始した。当局は今年に入り既に約1,000人が聖戦目的でシリア・イラクに向かったと見積もっている。また、内務省推計では現在も350人がシリアにおり、それ以外の人間は戦場を離れたか死亡したかだという。

#### （5）マルセイユ発生、警官及び警察署に対する襲撃事件

15日昼頃、3区のシテ地域をパトロールしていた警官が、屋根の上から覆面をした男らに石材を投げつけられる被害を受けた。その翌日の未明、今度は3区警察署の建物正面に手製の手榴弾を投げつける事案が発生した。手榴弾は爆発したが、物的人的被害はなかった。

#### （6）マルセイユ発生、路線バスを狙ったとみられる発砲事件

17日午後、マルセイユ市内を走る路線バスが15区内のバス停に止まった際、何者かの銃撃によりガラス窓が破損し、これにより乗客がガラス片で軽傷を負った。この事件の発生を受けて市内の公共交通機関は運行を停止し、街は帰宅のため歩く人々で溢れかえり、渋滞を引き起こした。

#### （7）マルセイユにて失踪した少女の発見

マルセイユ15区居住の19歳少女が行方不明になっていたが、同女は18日に空路でトルコ入りしたところを同国警察に発見され、間もなくマルセイユに退去されることとなった。同女はトルコに「観光で来た」と主張しているものの、当局はトルコ経由でシリア入りしたかったものとみている。

(8) エロー県リュネル発生、若者らのジハード参加と死亡

18日から19日、シリアにジハーディストとして入国したリュネル出身の若者4名が、シリア軍による爆撃で死亡した。彼らは約15名でシリア入りし、数カ月から1年間同国で活動していたとみられている。家族や夫婦で入国した者もあり、乳児を抱えた母親も複数いる由。

(9) エクサン・プロヴァンス発生、極右系活動家らによる共産党事務所襲撃事件

23日、極右系活動家約15名が共産党事務所になだれ込み、事務所にいた若者3名に暴行を加える事件が発生した。

(10) タルヌ県発生、ダム建設反対デモにおける若者の死亡

25日から26日にかけて、シヴェンスダム建設を巡って建設反対派100名と憲兵隊70名が衝突し、その結果反対派として参加していた21歳男性が死亡する事態となった。憲兵隊側には7名の負傷者が出た模様。この若者の死亡を受け、大統領・首相から遺族に対し哀悼の意が表明されたが、治安官憲の攻撃手榴弾投入（これまで殺傷能力はないとされていた）や政府の対応を非難する声は衰えず、事件以後、死亡した若者の地元であるトゥールーズでは土曜日毎に大規模デモが発生しており、怪我人や拘束される者が出ている。

(11) オート・ピレネー県タルブ発生、ジハーディストの実子連れ去り事案

タルブに住むモロッコ人の男が、仏人妻に無断で幼い娘2人を連れてカサブランカに帰り、親族に娘達を預けた上でジハードに参加しようとしたところを逮捕された。その後仏人妻の訴えにより、娘2人は11月中に帰仏する運びとなった。逮捕された男は、イスラム婚を挙げた別の女性とシリアに向かう予定であった。

●殺人（邦人被害なし）

(1) ニーム発生、殺人の疑いある発砲事件による男性の死亡

1日夜、Jonquilles 地区の路上で18歳男性が猟銃の発砲を受け死亡した。但し本件は殺人の疑いだけでなく事故の可能性もあるとのことで、何故なら被害者は被害に遭う直前まで対立する集団との抗争に備え猟銃を携帯しており、この銃の点検等をしていた際に暴発した可能性もあるとの由。しかし、警察が現場に到着した際は被害者周辺に銃はなかったことから、当局は銃の暴発事故発生後に何者かが銃を持ち去った可能性も考慮しつつ、殺人と事故の両面から捜査を継続している。

(2) マルセイユ発生殺人事件、犯人の検挙

今年1月に15区で発生した抗争事件とみられる殺人に関し、警察は12日、犯人一味を逮捕した。本件被害者は21歳の薬物密売人男性で、被害当夜、バーにいたところ現れた犯人により自動小銃で撃たれ死亡したものの。

(3) ペンヌ・ミラボー発生、殺人事件

16日深夜、強盗などの犯歴ある34歳男性が車に乗って帰宅し門扉を開けよう

としていたところを何者かに射殺された。遺体には銃弾9発が撃ち込まれていた。警察は犯人が被害者を待ち伏せしていた可能性が高く、本件を組織的犯行とみて捜査を進めている。

(4) トゥールーズ発生、ロマ人グループの抗争による殺人事件

17日、ロマ人キャンプ内で2つのグループによる武力抗争が勃発し、これによりロマ人1名が死亡し、3名が重傷を負った。

(5) マルセイユ発生、バイク盗騒動を発端とした殺人事件

21日未明、3区にあるシテ Felix-Pyat 内で腹部をナイフで数回刺された22歳男性が発見され、病院に搬送されたが間もなく死亡した。本件は被害者と別の男がバイク窃盗の件で言い争いとなったことが発端とみられ、警察は近隣に住む20歳の男を容疑者として逮捕した。この事件では、遺族側の人間による犯人家族への報復行為(傷害)も発生している。

(6) マルセイユ近郊発生、男性の変死体発見事案

22日午後、マルセイユとカシを結ぶ峠道の崖下150mの地点に男性が横たわっているのが発見された。1日以上掛けて引き上げられた男性の頭部には銃弾1発が撃ち込まれており、本件が単なる滑落事故ではないことを物語っているが、現場近くに残されていた男性の車内には薬きょうが残されており、警察は男性が自殺を図った可能性もあるとしつつ捜査を進めている。

●強盗(邦人被害なし)

(1) エクサン・プロヴァンス発生、侵入強盗事件

14日夜、4人組の武装強盗がエクス北部の邸宅に押し入った。この時、レストランを経営する家主夫婦は帰宅しておらず、犯人らは家で留守番していた15歳の少年を捕まえると邸内を物色して回り、現金や宝石類・バイクなどを奪って逃走した。

(2) トゥールーズ発生、店舗強盗事件と警官による犯人射殺

17日、スーパーマーケットに押し入った強盗犯が、駆けつけた警官に射殺された。検察は一時この警官を拘留したが、最終的に正当防衛だとして釈放した。

(3) アグド及びモンペリエ発生、凶器準備集合及び強盗事件

25日夜、アグド高校の駐車場にけん銃やナイフ、バットなどで武装したピエロ姿の若者14名が集まっていたところ、通報を受け臨場した警察に逮捕された。また、同夜モンペリエでは歩行者がピエロ姿の男達に鉄の棒で数十回殴打され所持金を奪われる事件も発生しており、エロー県で合計6件のピエロ被害が発生した。ハロウィンに乗じたこれらの犯行は、ソーシャルネットワークでアメリカから伝播した「流行」の影響だという。

●傷害(邦人被害なし)

(1) マルセイユ発生、高校生同士の喧嘩による傷害事件

14区の職業高校に通う17歳の男子生徒2名が学校の前で喧嘩を始め、1名が隠し持っていたナイフで相手の背中を2度突き刺し負傷させた。

(2) マルセイユ発生、ホテルロビーにおける重傷傷害事件

23日夕方、1区ノワイユ地区のホテルに宿泊していた21歳男性が、同ホテルのロビーで血を流して倒れているところを発見され、病院へ搬送された。この男性は背中・腕、胸をナイフで刺されており、警察は犯人特定のための捜査を開始した。

●薬物関連

(1) マルセイユにおける、シテ地区内薬物一斉捜索の実施

8日、警察などは2年越しの内偵捜査を経て市内10区及び15区のシテ地区に対する捜索を実施し、カラシニコフ2丁を始めとする銃器類、コカイン2kg（末端価格12万ユーロ）等を押収した。捜査員によると、今回の捜索対象となった15区カステラス地区だけで「1日500～600人の顧客が訪れる」由で、今回関係者10名以上が逮捕された。

(2) 仏・西当局による、コカイン密輸ルートの摘発

スペイン国家警察が仏警察の協力を得て、西領コスタ・ブラバ（カタルーニャ州北部の沿岸地域）にて国際的に活動するマルセイユのマフィアと結びついている犯罪組織を解体した。この組織はバルセロナ港経由で南米から密輸したコカインをスペインに入れるために裏会社を利用していた。本件摘発作戦は昨年11月に始まり、その間警察はタラゴナの倉庫に隠匿されていた420kgのコカインを押収し、カラシニコフ等を所持していたフランス人5名、スペイン人3名を逮捕した。麻薬は21tの魚類缶詰を輸送していたコンテナに隠されてペルーのカヤオ港からバルセロナ港に運ばれた。

●その他特異事件（邦人被害なし）

(1) マルセイユ発生、けん銃使用脅迫事件

30日夜、裏通りでゴミ収集作業員がけん銃を持った男に脅される事件が発生した。犯人はゴミ収集車の後ろを走行していた車の運転手で、いつまで経ってもゴミ収集車が動き出さないことから激昂し、持っていたけん銃で作業員を威嚇した由。

※ ここに掲載した事件は新聞等の公開情報を基にまとめておりますが、掲載した事件以外にも日々各種事件が発生していることを申し添えさせていただきます。